

令和6年度 第2回中津川市総合計画推進委員会 主な意見

日時：令和6年12月20日（金）14：00～17：00

場所：ふれあいのやかた加子母

議事1 令和5年度事業評価について

・事務局より

（「資料1-1」、「資料1-2」、「資料1-3」について説明）

- ・令和5年度施策評価の概要について
- ・令和5年度評価対象事業全体の目標達成状況
- ・「地域創生まちづくり戦略」「Ⅱ若者の定住戦略」における指標について（「転入人口・転出人口の差引（40歳以下）」、「合計特殊出生率」）

・主な意見

- ・若者の定住を推進するためには、若者に対して、地元には就職の受け皿となる企業があるということをしっかり伝えていくことが必要である。
- ・可処分所得で見ると、都会と比べ、地元での生活も悪くないと言える。そういったアピールをし、若者やその家族などへの意識づけをすることが重要である。
- ・外国人が増えてきていることは良いことである。それを活かしていけるような施策が必要となってくるが、現状、そのような施策が足りておらず、外国人が婚姻して、子どもを産んでもらえるような状況にはなっていない。このようなことが可能となるまちになっていけば、外国人の増加が合計特殊出生率等に良い影響を与えることができるのではないか。

議事2 令和6年度事業検証について

- ・後期事業実施計画に掲げる事業のうち、重点的に取り組むこととしている「地域創生まちづくり戦略」より「若者の定住戦略」を中心に、4事業をピックアップし、分野横断的に検証を行う。
- ・各事業担当課より該当事業について説明し、事業内容等について各委員より評価をいただいた。

「ひとまちテラス運営事業」

・事業の概要

- ・リニア開業を見据え、中心市街地活性化基本計画に基づき、子育て支援や市民交流、学び、観光の拠点となる場を提供する。
- ・市民にとって利便性の高い複合施設として、中心市街地のにぎわい創出と活性化を図る。

・主な意見

- ・市民のわかりやすさを重視するため、ひと・まちテラスと図書館の2つの部署を1つにした方が良い。
- ・外国人の観光客や移住者が増加してきている中で、特に言語の対応について、外国人にわかりやすくすべきである。
- ・ひと・まちテラスは過ごしやすく、使いやすいが、図書館機能がより注目されているように感じる。図書館機能だけでなく、人が集まる場所という機能について、もっとPRをしていくべきである。
- ・ひと・まちテラス3階の子育て支援センターについて、利用可能なこどもの年齢層が低いため、もう少し、利用要件を緩和すれば、利用者が増加するのではないか。

「木材関連産業人材確保事業」

・事業の概要

- ・木に触れ、木を知り、身近にある森林について考える機会を提供するため、市産材を活用した木製品や木製教材を贈呈する。また、森の担い手育成拠点として、「ぎふ木遊館」サテライト施設の管理運営を行う。
- ・職業選択肢を広げるとともに、新規就労者の確保につなげるために、森林文化アカデミーの学生に森

林業を体験する機会を提供。

- ・新規就労者の確保、定着につなげるため、新規林業労働者の就業支援や資格取得支援を行う。

- ・ 主な意見

- ・林業の人材に関するパンフレットの中で、給与等の情報が掲載されていると、パンフレットを見た人が就職、転職を考えやすくなるのではないかと。高校生や一般の方に分かりやすいように工夫して情報を発信することができれば、林業が職業選択の1つとして考えてもらえるのではないかと。

- ・外国人向けに中津川市の山林ツアーパッケージがあっても良いのではないかと。

「企業誘致推進事業」

- ・ 事業の概要

- ・働く場を求めて若い世代を中心に市外へ流出しており、安心して働く場の創出が求められている。

- ・市内企業の振興はもとより、新たな分野の企業を誘致することにより働く場を創出し、活気あふれるまちづくりを目指すため、リニア岐阜県駅の西側に中津川西部テクノパークを整備する。

- ・ 主な意見

- ・西部テクノパークに誘致する企業について、工業系などの1つの分野に特化するのではなく、幅広い分野の企業を誘致するべきである。若者や女性が働きたいと思える企業や、学校などを誘致することで、若者の定住につながっていくのではないかと。

- ・企業誘致によって創出される様々な効果を高めるために、他の部署との連携を密にして行い、相乗効果を高めていくべきである。

- ・企業を誘致できたとしても、その企業で働く人材がいなければ、立ち行かなくなってしまう。企業誘致と同時進行で、働く人の住みやすい環境の整備、支援を充実させることができれば、人材の確保につながるのではないかと。

- ・テレワークの普及によって、大都市から離れて仕事ができるようになってきているため、自然あふれる中津川市で働ける環境を整え、企業側へアプローチすることで、企業誘致が推進され、働く場の創出、若者の移住定住につながるのではないかと。また、リニア中央新幹線開業に合わせ、コワーキングスペースなどを誘致することで、リニアとの相乗効果を高めることができるのではないかと。

「結婚活動支援事業」

- ・ 事業の概要

- ・人口減少における一番の課題は出生数の減少である。晩婚化、未婚化、共働き家庭の増加等の社会情勢の変化に伴い、結婚・出産・育児の多様な市民ニーズへ対応するため、結婚相談員による結婚相談所を運営するとともに、婚活イベントを開催し、未婚者の出会いのサポートを行う。

- ・未婚者の出会いの場を創出するための市内各地域の結婚支援活動への補助や、他自治体、県との連携による広域的なお見合いのサポートを行う。

- ・ 主な意見

- ・参加しない人がなぜ参加しないのかという理由を分析し、どんな人でも参加しやすい制度にしていくべきである。

- ・婚活イベントを通して、カップルとなった方々が、この先、中津川に住んでもらえるのか、また、その理由についてデータを取って分析し、今後活かしてほしい。

- ・「結婚活動」という名前が、若者に一歩引かれてしまい、参加を躊躇させる1つの要因となっているのではないかと。ネーミングを工夫し、「婚活」のイメージを出さず、参加しやすいイベントにしていけると良い。

- ・事業の目的は単に出生率の増加をさせるためのものではない。事業の目的について、もっと幅を持たせた方が良いのではないかと。

- ・マッチングアプリ等は危険なイメージがあるが、自治体が主催する婚活イベントであれば、安心して参加できることもある。